



事業所における自己評価総括表

事業所名	おもちゃ箱なごplus			
保護者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 20日			
保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数)	22名
従業者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 15日			
従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強みだと思われること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間でのコミュニケーションが円滑で、立場や年齢関係なく意見交換できている。（風通しの良い職場の雰囲気作り）	常勤非常勤関係なく、幅広く意見を取り入れ活動出来ている。	コミュニケーションを大切にし、良いこと悪いことを話し合い、スタッフの強みを生かした支援が出来るようこれからも連携していく。
2	児童に良いと思える支援（必要な支援）は担当スタッフが個別で行える。	個別だと、指示が入りやすく集中できるので、覚えることや出来ることが増える。	個別と集団をうまくつなぐわけながらの活動を取り組むことで、本人が飽きたりすることない様にしていく。
3	名護市内であれば送迎が出来る。	保護者の要望に応えられるよう送迎時間の調整を行い、直前に送迎場所が変更になった場合でも対応できるようにしている。	送りは基本保護者様への受け渡しではあるが、塾やお稽古さきへの送りなど、臨機応変に行っている。なるべく保護者からの要望に応えられるよう今後も話し合いを重ねていく。

	事業所の弱みだと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の他の児童と、交流の場を持つこと	合わせられる時間などを考えると、同じ放課後等デイサービスの事業所との交流になってしまう。児童交流センターは改装中でなかなか交流の場に出向けない。	保護者の意向や、感染症の状況も考えながら検討していく。
2	保護者同士の関わり	コロナ後、保護者同士が顔を合わせる機会が少なかったことや家族を巻き込んだイベントが減ったこと。	感染症対策をしつつ、保護者会（交流会）等、保護者同士の関わりを企画、提供していく。
3	自然災害等の発生に備えての避難訓練の実施と周知について	送迎時間と場所がバラバラで、全曜日での訓練が出来る状況じゃない。（訓練時に怪我等の心配がありなかなか動けない）	自然災害は想定できない状況で起きるので、スタッフ間で話し合いを重ね、訓練をする必要性を考え順次実施していく。（保護者にも事前事後の連絡と報告を行う）